

家庭学習応援だより

今号で今年度のお便りは最後です。先日の学級懇談会で各学級の担任から、今年度の学習や生活の様子の話があったと思います。それぞれの学級や学年の現状がお分かりになったのではないですか。ですので、今号に担任からの「コミュニケーションボード」はありません。また、個別には「あゆみ(通信票)」が渡されると思うので、個別の課題を春休みの学習に生かしてほしいと思います。

さて、今号では、CBT試験、プログラミング教育、GIGAスクール構想、CEFR、大学入学共通テスト(大学入試改革)など、教育界には絶えず新しいワードが出てきます。そこから見えてくる今の時代に求められている学力観について考えてみたいと思います。「高校、大学は、まだ先だから。」と思うかもしれません、学習した内容をただ暗記すれば大丈夫、といった学習の仕方を親が勧めている子供の将来を狭めてしまうかもしれません。だからこそ、ある程度の情報は入れておいてもよいと思います。



今の大大学入試

最近の大学入試で問われている学力とはどのようなものでしょう。これから挙げる実際の入試問題から、まずは親御さん自身で大学が受験生に求める学力がどのようなものかを読み取ってみてください。

1. 某難関私立大学 法学部 入試問題

【問題】ある星から地球に観察にやってきた宇宙人が、次のような質問状を残していました。

「地球でいちばん驚いたことは、地球人が国と呼ばれる単位に分かれて暮らしていて、国ごとに異なる制度の下で競い合っていることです。私たちの星には、国という制度ばかりか、その概念すらありません。そこでお聞きしたいのですが、地球人はなぜ国という単位に分かれて暮らすことを好むのですか？」

【問】以上の質問状に書かれた問い合わせに答える形で、宇宙人への返事を書きなさい。

2. 某難関公立大学 医学部 入試問題

【問題】あなたは高校の教師である。ある日、授業の一環として稻刈りの体験作業があり、へき地の農家に田植えの体験授業に生徒を連れて出かけた。稻刈りの体験作業の後、農家のおばあさんがクラスの生徒全員におにぎりを握ってくれた。しかし、多くの生徒は他人の握ったおにぎりは食べられないと、たくさん残してしまった。

【問1】あなたは、おにぎりを食べられない生徒に対し、どのように指導しますか。

【問2】あなたはこの事実をおばあさんにどのように話しますか。

いかがでしょう、どのようなことを大学が問うているか読み取れましたか。これまでのように暗記で解ける問題でしたか。これらの問題は、もちろん一般入試ではなく、推薦入試やAO入試の問題です。ですが、今や大学の学生の半数近くが推薦入試やAO入試で入学してきていると言われています。そして、これらの問題は、模範解答と言われるものがほぼありません。また、2.の問題は、教育学部でもないのに、なぜか教師の立場で思考する問題が出題されています。例えば、1.の問題であれば、最低限の高校の歴史総合、地理総合、公共といった社会科の知識を横断的に問われているのが前提になるでしょう。2.の問題なら、医学部の入試であるのにも関わらず文系の高校倫理の知識も必要となるかもしれません。これらの問題では知識量ではなく、知識を活用して課題を解決する力が求められています。また、問題に解答するためには、次の3点の思考系能力が必要だと思います。

- ① 知識を応用して深い思考を展開する力
- ② 展開した思考を明確に伝える力
- ③ 主体性、協働性

解答を導くには、知識が足りなければできないので、まずは知識を習得する。ここで終わっていたのが親世代の学力観です。しかし、これからは自ら進んで他者と関わりながら知識を増やしつつ、その知識を駆使して思考し、他者と伝え合い、自分が納得できる最適解を導くことが求められ、親世代より高度になっていると言えます。

高校で新設された科目からわかること



小学校では、令和2年度から新学習指導要領が完全実施され、昨年度は中学校、今年度は高校で完全実施されました。特に、高校では大幅なカリキュラム改変が行われ、今までになかった教科が出てきました。先程から出ている「公共」、「歴史総合」、「理数探究」など、多くの教科が刷新されました。いくつか挙げておきたいと思います。

論理国語

- ・多様な文章を多角的な視点から理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する。

理数探究

- ・科学的、数学的な見方、考え方を用いて課題を設定し、探究の過程を整理し、成果などを適切に表現する。

歴史総合

- ・課題の解決を視野に入れ、世界とその中における日本について、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する。

公共

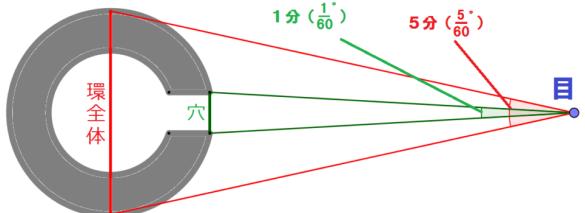
- ・現代社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成すること等について考察する。

英語コミュニケーション

- ・英語の4技能を総合的に育成し、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付け発信力の強化を目指す。

高校はまだ先の話ではなく、近い将来です。6年生なら、あと3年です。保護者の皆様から見れば、小学校の学習内容は、ご自分が子どものころとほとんど違いがないように見えるかもしれません。以前も触れたように、漢字練習は相変わらずドリル学習がされていますし、九九の暗唱は令和でも小学算数では必須の知識です。

分かりやすく言えば、それさえできていればよいのか、というと、十分でないのが今の学力観です。また、知識は日常生活や社会生活にあるさまざまな問題や課題を解決するために必要なものというのが前提なので、知識は活用されて初めて価値が生まれるというのが基本的な考え方です。単に公式を暗記している、歴史の年号が言える、実験の手順や器具名が言える…ではなく、右図はその一例ですが、数学なら視力検査に使用するランドルト環を取り上げ、環やそのすき間の大きさと視力の関係はどのように計算されているのかを考察しながら、反比例との関係を発見していく過程などは、まさに今の学力観に合った学習だと言えます。



おわりに

先日読んだ記事で「宿題」がテーマになっていたので、今号で取り上げたいと思います。教育ジャーナリストの中曾根陽子さんの取材によると、あるきっかけから宿題の意義や目的は何かを考えてみよう、小学校の先生に取材してみたところ、「理想は、宿題なし」と口々に言わされたそうです。本来家庭学習は、自分が学びたいことや、授業で興味を持ったことを深めるためにするものだが、毎日宿題は出しているのが実態なのだろう。子育て中の先生も多く「一親として、こなすだけの宿題が本当に必要かは疑問」という声が大半だったという。先生にとって毎日の宿題チェックはかなりの負担になっているようで、朝や昼の時間を削ってチェックしているのが実態。【本校の学級担任も休憩の時間もなく毎日子どもたちの宿題をチェックしています】

「宿題を出してほしい」という保護者の声や「宿題があるから、何とかついてこられる子もいる」、「学年である程度内容や量をそろえないといと…。」など、様々なジレンマを抱えながら、今の小学校では「宿題は出すもの」となっており、そろそろ「宿題」が再考される時期にきているように思います。保護者の皆さんはどう思われますか。